

2021. 2. 15 <計2枚>

京都大学記者クラブ加盟社 各位

立命館大学広報課

立命館大学 人間科学研究所 20 周年記念総会／立命館土曜講座

「人間科学の未来—多様性を架橋する」

日時：2021 年 2 月 27 日（土） 13:00～17:00

開催形式：オンライン（zoom）開催

立命館大学人間科学研究所は、2月27日（土）に 20 周年記念総会「人間科学の未来—多様性を架橋する」を開催いたします。本総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンライン（zoom）にて参加・視聴が可能です。

人間科学研究所では、広く人間と環境に関するテーマについて、個別の学問領域（学範＝ディシプリン）とそれらの共同（学際的研究）だけでなく、具体的社会課題の解決のために、新しい方法論を創造しつつ新しい研究を開拓する「学融的研究」とその社会実装に取り組んでいます。

20 周年記念総会では、今後の人間科学研究の方向を探るべく、新型コロナウイルス感染症パンデミックや東日本大震災といった危機的状況下において「つながること・支えること」を考えるシンポジウムを行います。また、今日的課題に取り組む 2 つの重点プロジェクト—「修復的司法—法と人間科学」「シームレスな対人支援」から、それぞれの代表的な成果についてご報告いたします。

記

日 時： 2021 年 2 月 27 日（土） 第 1 部 13 時 00 分～14 時 30 分

第 2 部 14 時 40 分～17 時 00 分

開催形式： オンライン（zoom）開催

内 容： 別紙をご覧ください。

参加費： 無料（事前の参加申し込みが必要です）

参加申し込み：web を通じた申し込み（下記 URL または人間科学研究科 HP より）

[https://docs.google.com/forms/d/14wt\\_ykNCv1kk8zHmzGGUqgwwNqK3qmFHoLX73Ta\\_qoEQ/viewform?edit\\_requested=true](https://docs.google.com/forms/d/14wt_ykNCv1kk8zHmzGGUqgwwNqK3qmFHoLX73Ta_qoEQ/viewform?edit_requested=true)

定 員： 400 人 ※定員に達し次第、受付を終了いたします。

情報保障：ご希望のお申し出により対応いたします。

主 催： 立命館大学人間科学研究所 ・ 立命館土曜講座

以上

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学人間科学研究所事務局（衣笠リサーチオフィス）

担当：平田・久保 TEL. 075-465-8358

<https://www.ritsumeihuman.com/>

【第1部】13時00分～14時30分

研究報告「人間科学の最前線」

人間科学研究所の多彩な研究の中から、重点プロジェクトとして推進してきた二つの研究について、報告を行う。

① 「修復的司法—法と人間科学」プロジェクト

- ・若林宏輔(総合心理学部 准教授／立命館グローバル・イノベーション研究機構拠点リーダー)  
修復的司法および心理学の視点から「法と対人援助」プロジェクトを振り返る
- ・森久智江(法学部 教授／立命館グローバル・イノベーション研究機構拠点・修復的司法グループ・リーダー)  
修復的司法および「立ち直り」の視点から「法と対人援助」を展望する

② 「シームレスな対人支援」プロジェクト

- ・矢藤優子(総合心理学部 教授／立命館グローバル・イノベーション研究機構拠点リーダー)  
乳幼児期から老年期まで、科学的根拠に基づくシームレスな対人支援を実践する
- ・土田宣明(総合心理学部 教授)  
対人支援の視点から「高齢者プロジェクト」を振り返る

座長:サトウタツヤ(総合心理学部 教授)

【第2部】14時40分～17時00分

シンポジウム「『つながること・支えること』の人間科学—危機に学び、未来へ結ぶ」

新型コロナウイルス感染症のパンデミックに象徴されるように、震災、原発事故、戦争、テロリズムなど、立命館大学人間科学研究所発足以来の20年において、私たちは多くの危機に直面してきた。危機と隣り合わせにありながら、人間科学はそこから何を学び、どのような実践を行ってきたのだろうか。私たちは、つながり・支えることについて、これまで蓄積された知(経験知、身体知、実践知、形式知)から何を掘り起こし、次なる危機に備えてどのような社会実装をしていけばよいのであろうか。本シンポジウムでは、こうした問題意識をふまえつつ、今後の「つながること・支えること」の人間科学を考える、未来志向の議論を行う。

シンポジスト:

- ・中村正(産業社会学部 教授)  
多様性と社会実装の20年—立命館の人間科学
- ・松田亮三(産業社会学部 教授／人間科学研究所 所長)  
支えることの架橋—ゲノム医療とAIの時代を迎える中で
- ・仲谷善雄(学校法人立命館 総長／立命館大学 学長)  
つながりを創る—思い出工学が目指すもの
- ・松原洋子(学校法人立命館副総長・立命館大学副学長／立命館大学大学院先端総合学術研究科教授／元人間科学研究所所長)  
「支える」とは?—ダイバーシティ・アクセシビリティの視点から

モデレーター:

- ・安田裕子(総合心理学部 准教授)